

日本漢方協会通信

2022年8月

漢方薬局製剤実習講座が開催されました

～2022年7月17日(日) 於 東京薬科大学・八王子キャンパス～

■ **オリエンテーションと感染対策** …参加者69名＋役員22名。広い会場で対策の上、開催しました。



開会挨拶：三上会長

今年も昨年と同じく、広い会場にて開催できました。



班分け体制

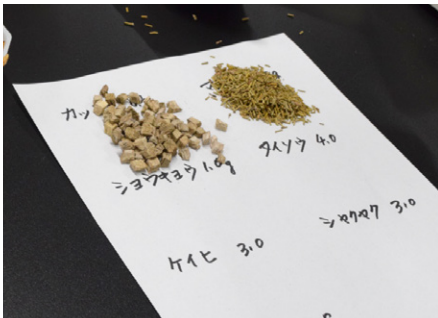
1班を4～5名の小グループとし、全19班集体制としました。



会場風景

壁面大型モニター完備で、すべての席から映像がよく見えます。

■ **【茶剤】 葛根湯** …古典に則り麻黄・葛根を「先煎」する方法と、現在一般的な一括煎じの両方を体験しました。



「先煎」の秤取

葛根と麻黄を先に量り取り、確認試験を行っているところです。



2種類の葛根湯分包

1袋が上下に分かれているのが「先煎」に対応した分包です。



4パターンの煎液を比較

左から「一括・袋なし」「先煎・袋なし」「一括・袋あり」「先煎・袋あり」

■ **【散剤】 解熱鎮痛剤8号A** …本実習で初めて扱う、漢方生薬と西洋薬(アセトアミノフェン)の合剤です。



アセトアミノフェンの粉碎

大きな結晶を乳鉢で碎き、生薬末と同程度の粒径に揃えます。



混和・分包・封入

混和した散剤を1.5gずつ分包皿へ分け、袋へ移しシールします。



重量偏差試験

平均値と各包の重量差が一定基準以内であれば合格です。